

馬鈴しょの浴光催芽について

馬鈴しょ栽培は「種いも半作」と言われるように、種いもの管理が非常に重要となります。適切な浴光催芽は、収量・品質の向上や適切な茎数確保、萌芽の斉一化等の多くのメリットがあります。今一度、自分の催芽管理を見直しましょう。

1 浴光催芽前の準備

出庫前(10~15日前)に10℃程度に昇温させ、浴光催芽前に種いもの芽を1~2mm程度にしておきます。こうすることで、①浴光した際に光を受け止めやすくなる、②頂芽優勢が崩れ茎数が揃いやすくなるといった効果があります。

昇温せずに浴光催芽をした種いもは、昇温した種いもに比べて、催芽期間を10日近く長くしなければならず、催芽期間中に低温に遭う確率が高くなり管理が難しくなります。出庫前の昇温を適切に実施し、催芽作業を行いましょ。

2 浴光催芽の方法

- ①催芽目標 頂芽の大きさは5~10mm、太さは5~7mm程度を目指しましょう。
- ②催芽日数 催芽に必要な日数は品種によって変わります。下の表を参考にし、浴光催芽を行ってください。

表1 品種毎の催芽に要する日数

品種	催芽日数
メイクイン	15~20日
男爵いも、スノーデン、トヨシロ、とうや	25日程度

- ③ 催芽適温 芽が動くまで：15℃程度
芽が動いたら：5~15℃程度
- ④ 目が動いた後の管理
 - ・種いもは明所に置き、昼間の温度は15℃を越えないように気をつけましょう。
 - 温度が高すぎる(20℃以上)と、芽の軟弱徒長、黒色芯腐(25℃以上)を招きます!
 - ・催芽期間中は、1週間に1回以上種いもの上下積み替えが必要です。
 - 下段の芽が軟弱に徒長するのを防ぎましょう!
- ⑤ 注意事項
 - ・高温、日照不足、多湿条件では芽が徒長するので注意が必要です。
 - ・芽が伸びすぎて脱落すると、減収の要因になります。
 - ・図の丸が付いてる様な太く短い芽を作りましょう。

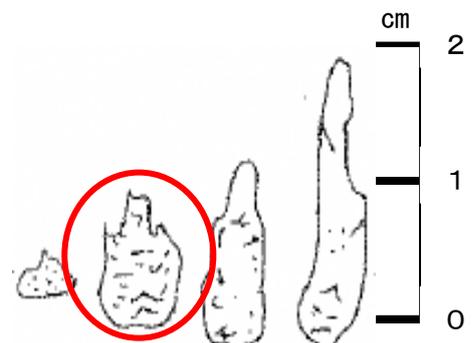


図 浴光催芽時の芽の模式図

体調管理に気をつけ、農作業事故を防ぎましょう!